

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ひとつ星・さかど		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 28日		2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年 11月 28日		2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全国的に数少ない聴覚障害やろう重複障害の対象児の放デイであり、専門的な支援を取り組んでいる。	子どもたちの状況に合わせて、手話や口話、指文字、筆談、身振り、表情、写真、絵カード等の視覚的な情報を提供し、コミュニケーション面において、大切に取り組んでいる。また障害の特性を考慮した支援も努めている。	専門性や職員の質を高めるために、内部研修や外部研修に積極的に参加している。研修で得た知識等は、実践に活かせるように行っている。
2	保護者や学校、相談員との連携が取れ、子どもも保護者も安心して利用が出来る。	保護者とは、送迎時や電話、メール等を活用して、情報共有が出来る環境を作っている。学校での様子も送迎時に確認し、情報共有の上で支援を行っている。	自宅や学校、他事業所から支援方法を聞き、活かせるように今後も引き続き、続ける。
3	室内だけでなく、屋外での活動も多く取り入れ、様々なことを経験できるようにしている。	主に長期休暇時に外出やお買い物等などの活動を取り入れ、公共でのマナーを学んだり、お金の払い方等を学んだり、様々な経験ができるように取り組んでいる。	職員が企画を考えることが多いため、子どもたちが主体的に活動を考え、取り組めるような機会を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	受け入れられる聴覚障害やろう重複の対象児が限られている。	ろう学園の子どもに限らず、地域の小学校等に通うきこえない・きこえにくい子どもを受け入れやすい環境作りや対象児の情報提供の協力のお願い。	ことばと聞こえの教室のある学校(通級)に情報提供、呼びかけを強化。
2	スペースや環境面で十分でない面があり、支援中、戸惑うことがある。	設備や広さに限界があり、子どもの状況に合わせたスペースが少ない(クールダウン、勉強に集中できる個別の部屋、子どもとの相談等)。	パーティション等を活用して、空間を分けるための設備を増やす。事業所内を再度整理整頓し、不要な物を処分する。
3	情報発信が少ない。	現在情報発信が出来るようなツールを使用していない。	個人情報に留意し、ホームページやSNS等の活用強化。